

受 理 番 号	陳情第 4 0 号
件 名	広島市教職員の人事評価の不公平の改善と働き方改革を文化的平和にすすめることについて
要 旨	今の広島市の学校は、こどもが夢や希望を持てるような場所になっているだろうか。そこでの学習環境の鍵を握っている存在が、学校の教職員であることは言うまでもない。 学校の教職員は、目の前にいるこどもたちと向き合い、健やかに成長していけるよう業務に励んでいる。ただ、驚くべきことに、その業務の具体は明文化されていない。そのため、「こどものため」という名目で業務は多岐にわたる。その上で、地域・保護者、こどもの要望と期待に無理をして応えようとしているため、組織として疲弊した状態にある。 そして、更に悪いことに、明文化されていない業務について、教職員は人事評価をされるという、余りに理不尽な現実がある。その評価は、こどもへの教育活動ではなく、校長への貢献度で測られる。 つまり、広島市の教職員は、公的に、校長個人のために勤務することを強要されている状態にある。 広島市教育委員会及び校長による人事評価が余りにも教職員の人権が軽視されたものになっており、直ちに改善をしないと、広島市の学校教育は、破綻する。若しくは、既に破綻し掛かっており、教育委員会や校長会はもはや、広島市民のための組織としての体を成していない利己的集団になっている。 学校で学ぶこどもたちは、広島市の未来である。広島市の未来を支える教職員は、こどもと健やかに関わるができるよう、最低限度の人権を保証されるべきだ。 広島市の学校で育つこどもたちが、文化的平和に、つまり、誰もが自由に自分らしく、晴れ晴れした気持ちで生活し、夢や希望を持てる学習環境を整えるため、下記の事項を陳情する。 記 1 教職員の業務を可視化すること。つまり、学校の教職員は具体的にどのような業務をする必要があるかを明記するとともに、その遂行にはどのくらいの時間を必要とするかを換算すること。さらに具体的には、一つ一つの役職にはどのような業務をする必要

要 旨	があるのか細分化して文書で示すこと。その際、今現在も学校で生活しているこどもや教職員は交換可能なモノではなく、心を持つ一人の人間であることを留意すること。少なくとも、そこで生活している人間や関係者の信頼関係を損なうようなものにしてはいけない。 2 可視化された業務に対する取組及び達成状況を数値化し、それを基にして客観的に能力評価として人事評価を行うこと。決して「総合的な判断」という便利な言葉を根拠にして、主観的な評価が行われないようにすること。 3 業績評価と能力評価に相関関係を持たせ、教職員が業務に対するやりがいを持って、生き生きとこどもと向き合えるよう、構造を作り変えること。現状は、関連性があると説明しておきながら、その根拠は評価者の主観のみでしかなく、説明責任を全く果たせておらず、そこに信頼関係はみじんもない。あるのは、主従関係だけである。 4 この疲弊した状況を、校長会がリーダーシップを発揮し、解決すること。今更経済的に難しいという言い訳をするのであれば、労務管理を責任を持って行い、教職員の人権を保証できるよう教育委員会と協力をして問題解決に当たること。現状は、職務放棄に等しい。そこで新たな予算が発生するとしても、その後の責任は議会に委ねられる。校長にはそれぞれの学校運営を決定できる絶対的な権力が構造的に認められており、それは文部科学省や教育委員会の通知よりも上回る。現在の疲弊感の一切の責任は全て、学校の状況を隠ぺいしてきた過去の校長にあることを自覚し、今すぐに取り組を進めること。 以下、陳情理由として、広島市の学校で起きていることを記す。 内容の中心には、文化的平和を置いている。 広島市教育委員会が実施している人事評価が大変なことになっている。何が大変か。それは、不公平さ加減が半端ないことだ。 広島市の教職員が、広島市で育つこどものために、ポジティブに、晴れ晴れした気持ちで、教育活動を実践するためには、人事権を握る校長及び教育委員会がこの不公平な評価と向き合い、改善する必要がある。 教職員の評価は、人事評価ハンドブックにのっとり、能力評価と業績評価に分けて行われる。最終的な評価者は、校長である。 そして、その評価は、校長の主観によって行われる。正確には、
------------	---

要 旨	客観的に評価するよう努めて、主観的に評価を行っている。 もう少し具体的に書くと、業績評価は個々人が設けた業務目標に対する評価のため、一定の客観性は保たれているが、能力評価は校長による「総合的な評価」のため、その規準も不透明であり客観性が入り込む余地は、校長の主観以外に存在しない。 そのため、校長の好みによって（意図的であれ無意図的であれ）能力評価は上がったたり下がったりするという、不公平極まりないものである。だから広島市では、同一人物であるにもかかわらず、校長が変われば能力が大きく変化するということが当たり前に行われている。この評価方法で、どのようにして学校が異なる教員の能力評価の公平性が保てるのだろうか、疑問で仕方がない。役職と責任のみを示し校長の裁量で業務の出来不出来を判断している現状は、教職員の人権を完全に無視している。 また、業績評価と能力評価の相関関係も校長の主観によるものであり、業績評価が高いにもかかわらず能力評価は高くないという、教職員のやりがいそぐような、あってはならない評価まで当然のように存在しており、教育委員会も了承済みである。広島市の教職員は、校長の意向に添うことのみが、人事評価の規準になっている。 ちなみに、私は人事評価を不服とする申立てを、担当部署である教職員課にしたところ、自分で校長にその理由を確認すればいい、との回答を得ている。広島市では、明らかに不当と思われる評価を下されていても、教育委員会は関与しない。個々の教職員に対する人事権は行使するが、人事評価は知ったこっちゃないというのは、無責任にも程がある。 また、校長に不当だと思われることの説明を求め、客観的に公平な評価をすべきだと伝えたところで、主観のみに頼った説明とともに、「公平な評価を求めるなら、あなたが校長になればいい」という、権威主義をかざした回答を得ている。 一言で言うと、やばい。 これは、どこかの誰かが書いた物語ではない。 名前の知らない町の物語ではない。 私たちが生活している、広島市で現実に行き起きていることである。 そして、この現状を変え得る方法、つまり、校長の主観によらず、公平かつ客観的な方法で人事評価する方法が、教職員の業務を可視化することである。 現在の学校運営に関する校内人事は、校長の主観による適性及び学校に所属する教員集団の雰囲気が決まる。それ自体は、流動的に
------------	--

要 旨	行われる人事異動の弊害として、現在の学校運営の構造上仕方のないことである。しかし、そうして作られた校内人事で学校運営を進めるのであれば、その役職や授業の担当時間数にどの程度の負担（それは、役職の責任からくる負担とともに、その職務を遂行するに当たって一般的に必要なとする時間からくる負担も含む）が掛かっているか、適正に把握し、管理すべきである。 少なくとも現状は、教職員の勤務時間は規定されているにもかかわらず、職務の遂行に要する時間的な部分は全く管理できていない。休憩時間すら現実的にはないに等しく、労働環境は劣悪極まりない。そして、広島市議会でそれを把握するつもりはない、と言い切っているのが、広島市教育委員会という組織である。 つまり、そもそも人事評価に不信感が漂い、客観性も公平性も保てないのは、労務管理が余りにいい加減に行われているからである。 そして、このような労務環境において、校長の主観による期待に基づき能力評価が行われているため、客観的な評価である業績評価が高い教員であっても、その能力が適正に認められないことが実際に起きてしまう。更に悪いことにこの現実を受け入れ、こどもの成長に向き合うのではなく、校長の意に添える者だけが高い人事評価を得て、校長その他の教育委員会の役職に付いている。 これが、広島市の教育行政の現在の形である。 そのような組織に、希望はない。 校長の機嫌を取ることは、教職員の仕事ではない。 教育行政には、今も権威主義がはびこる、そんな社会がある。もしそれを否定したいなら、人事権を握る立場の者が、率先してこの構造的・文化的暴力性の強い構造を作り替えていくべきである。 平和文化の振興を声高々に掲げる広島市が、なぜそれをしないのか、不思議で仕方がない。まさか、広島市の行政が利己的な組織集団なのか。 そんなはずがないと、信じたい。 私たちが生きるこの場所は、平和都市ヒロシマである。 いかなる形の暴力も、許されてはいけない。 校長会は、今のまま利己的集団を続けるつもりなのだろうか。校長の権力の強さは、先に記した。現状を変えようと勇気を持ち行動に移している校長は、今のところ一人も存在しない。学校運営の責任者として情けないにも程があるが、過去の校長にこびへつらう者だけが校長になっている構造を考えたら、説明が付く。そもそも、構造的・文化的暴力に向き合う勇気ある者は、今の広島市では校長
------------	---

要 旨	になれるはずがない。 だから、変えていこう。 広島市の学校は、広島市に生きるこどもを育てる空間である。そこでこどもと共に過ごす教職員は、目の前にいるこどもと向き合い教育活動を実践すべきであることは言うまでもない。 広島市の学校教育を担う組織が、こどもを一人の人間として尊重し、関わり、働き掛け、彼らが成熟した未来に希望を託す、そのような教育活動が行える場が変わっていくために、本陳情は書かれている。 希望は、文化的平和にある。 助けてほしい。 共に作ってほしい。 本気で、全力で、考えてほしい。 晴れ晴れした気持ちがあふれる、広島市の未来の実現のために。
----------------	--